

■ 平成 26 年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

| | |
|-------------------------|--------------------------|
| 購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等） | 827 点 |
| 寄贈資料受入れ総数（同上） | 8,907 点 |
| | 9,734 点 |
| 整理・保存 | 収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等 |
| 閲覧 | 利用者 延 5,990 人 |

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

| 区分 | 事業名 | 実施時期 (日数) | 観客数 (人) | 展覧会の概要 |
|----|------------------------------------|-------------------------------------|------------|--|
| | 常設展 北海道の文学 | 通年 (309 日間) | 11,598 | 北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料 1,350 点を紹介。(◎展示構成を次頁に掲載。) |
| | 特別展 「氷点」50 年 三浦綾子フォトメモリアル | 4/19(土) ～ 7/6(日) (68 日間) | 6,016 | 信仰にもとづく愛をテーマに創作を続けた作家・三浦綾子の代表作「氷点」が発表されて今年で 50 年。札幌在住の写真家・後山一朗の写真コレクションを主軸に、現代に生きる三浦文学の魅力を紹介。 |
| | 特別展 FROM HAND TO HAND 手から手へ展 | 7/19(土) ～ 8/24(日) (32 日間) | 3,273 | 2011 年の東日本大震災後、日本の絵本作家たちを中心となり、「3.11 後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで、世界の絵本作家たちに作品制作を呼びかけ、その結果集まった 7 か国 110 人による絵とメッセージを紹介。 |
| | 特別展 ムーミンの世界展 ～ヤンソンさんからの贈り物～ | 9/6(土) ～ 11/9(日) (57 日間) | 17,393 | フィンランドの作家トーベ・ヤンソンによって生み出されたキャラクター「ムーミントロール」。以来、「ムーミン」シリーズは、物語や絵本、コミックス、アニメーションなど、さまざまな形で 70 年近くにわたって世界中の人々を魅了し続けてきました。今年生誕 100 年を迎えたヤンソンによるムーミンの世界を紹介。 |
| | ファミリー文学館 “うま”とあそぼう!! | 11/22(土) ～ 1/18(日) (45 日間) | 1,486 | 北海道の開拓時代をはじめ、人間の生活には寄り添うように「馬」がいました。そのような馬の姿を小説・詩・短歌・俳句作品や絵本を通して紹介。 |
| | 特別展 小檜山博の文学 —野性よ退化する現代を撃て— | 1/31(土) ～ 3/22(日) (44 日間) | 2,067 | 滝上町生まれの小説家・小檜山博は、1970 年代半ばから北海道に生きる人間をテーマに「出刃」、「光る女」、自らのルーツを凝視した「光る大雪」など小説を発表し、多くの衝撃と感動を与えている。また、エッセイスト・コラムニストとしても活躍し、珠玉の作品を発表している小檜山博の文学世界の魅力を紹介。 |

【文学館アーカイブコーナー】

- ・第 1 期展示〔4 月 8 日(火)～6 月 29 日(日)〕
梁川剛一の紙芝居
函館出身の挿絵画家・梁川剛一の紙芝居を新着資料中心に紹介。
- ・第 2 期展示〔7 月 8 日(火)～9 月 28 日(日)〕
掛川源一郎の写真—風景の始源へ—
掛川源一郎の写真作品を文章とともに紹介。
- ・第 3 期展示〔10 月 7 日(火)～12 月 28 日(日)〕
森の人デルス・ウザーラ原画作品
ロシアの画家パヴリーシンが描いた原画作品を紹介。
- ・第 4 期展示〔1 月 12 日(月)～3 月 29 日(日)〕
武井武雄の世界
武井武雄（童画家、版画家、造本作家）による刊本作品を紹介。

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎「札幌農学校」 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海道文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎「『伸子』覚え書き」自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井廣治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、斎藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、白田亜浪、石田雨園子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和初期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

III 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担金事業、※印は財団企画事業。

| 事業項目 | 事業名 | 実施時期(日数) | 目標観覧(参加)者数(人) | 観覧(参加)者実績数(人) | 備考 | |
|--------|---------------------|---|----------------------|---------------|--------------|---|
| 教育普及事業 | 講演会・セミナー・講話等 | 映画上映会「氷点」 | 4/26(土)2回 4/27(日) | 227 | 「氷点50年展」関連事業 | |
| | 〃 | 文芸対談「三浦綾子さんの思い出」 講師：後山一朗(写真家)、合田一道(作家) | 5/11(日) | 80 | 〃 | |
| | 〃 | 特別講演会「銃口の背景」 講師：佐竹直子(北海道新聞記者) | 5/18(日) | 79 | 〃 | |
| | 〃 | 朗読会「三浦綾子作品を読む」 | 5/31(土)、6/15(日) | 50 | 167 | 〃 |
| | 〃 | 文芸講演会「三浦綾子の文学」 講師：神谷忠孝(財団理事長) | 6/8(日) | 62 | 〃 | |
| 〃 | 「手から手へ展」オープニングセレモニー | 7/19(土) | | 20 | 「手から手へ展」関連事業 | |

| 事業項目 | 事業名 | 実施時期(日数) | 目標観覧(参加)者数(人) | 観覧(参加)者実績数(人) | 備考 |
|------------------|---|--|---------------|---------------|--------------|
| 講演会・セミナー・講話等 | 文芸講演会「絵本の楽しみは深くて広い」講師：藤田春義(こどものとも社代表取締役) | 7/21(月) | | 39 | 「手から手へ展」関連事業 |
| 〃 | 合唱コンサート「手から手へ」のこころ 歌にのせて」出演：中島中学校、柏中学校、幌西小学校 | 7/26(土)、8/9(土)、8/24(日) | | 181 | 〃 |
| 〃 | 文芸講演会「手から手へ展のはじまりとこれまで。そして、これから」講師：降矢奈々(絵本作家) | 7/27(日) | 80 | 88 | 〃 |
| 〃 | ワークショップ「わたしからあなたへ お絵かきバトン」講師：かとうまふみ | 8/2(土) | | 23 | 〃 |
| 〃 | 読み聞かせ「手から手へ」読み聞かせタイム | 8/7(木)、8/10(日) | | 43 | 〃 |
| 〃 | ワークショップ「ウマのマリオネットをつくろう」講師：おたのしみ劇場ガウチョス | 11/29(土) | | 18 | ファミリー文学館関連事業 |
| 〃 | 文芸トーク「馬——加藤多一の世界」講師：加藤多一、札幌南高校図書員 | 12/13(土) | | 47 | 〃 |
| 〃 | 読み聞かせタイム | 11/22(土)、12/6(土)、12/13(土)、12/27(土)、1/10(土)、1/17(土) | | 44 | 〃 |
| 〃 | 文芸講演会「自作を語る」講師：本田哲也(絵本作家) | 1/18(日) | 80 | 31 | 〃 |
| 〃 | 「小椋山博展」オープニングセレモニー | 1/31(土) | | 78 | 「小椋山博展」関連事業 |
| 〃 | 文芸講演会「私の原風景」講師：小椋山博(作家) | 1/31(土) | 80 | 120 | 〃 |
| 〃 | 文芸講演会「小椋山博文学の現代的意義」講師：神谷忠孝(北大名誉教授) | 2/8(日) | | 39 | 〃 |
| 〃 | 朗読会「小椋山博のエッセイを読む」 | 2/15(日)、3/7(土) | | 142 | 〃 |
| 〃 | 映画上映会「恋するトマト」 | 2/22(日) | | 105 | 〃 |
| 〃 | 文芸トーク「小椋山博への質問」講師：小椋山博(作家)、阿部典英(造形作家) | 3/8(日) | | 108 | 〃 |
| 講演会・セミナー・講話等 | 公開読書会 出演：小椋山博文学を読む会 | 3/15(日) | | 75 | 〃 |
| 朗読会 | 「原田康子の世界」 朗読：松井信子、田村英一 | 10/4(土) | 60 | 71 | |
| 古典の日記念朗読会 | 朗読：ドラマチックリーディンググループ蔵 | 11/7(金) | 60 | 120 | |
| 月例朗読会 | 朗読：朗読表現「ゆうの会」ほか4団体 | 年10回 | 600 | 708 | |
| わくわくこどもランド | 紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加 | 16回開催 | 700 | 513 | |
| 映画鑑賞会 | 「若い人」 | 6/29(日) | 60 | 61 | |
| 映画鑑賞会 | 「パペットアニメーション〜ムーミン谷の夏まつり」 | 9/28(日)2回実施 | 60 | 137 | |
| 映画鑑賞会 | 「新選組始末記」 | 12/21(日) | 60 | 65 | |
| 映画鑑賞会 | 「南極料理人」 | 3/22(日) | 60 | 73 | |
| 市町村連携事業「文学館出前講座」 | 市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催 | 25市町村28会場 | 1,200 | 2,286 | |
| 市町村連携事業「ミニ巡回展」 | 市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催した。 | 3市町村3会場 | 500 | 5,221 | |
| ロビーコンサート | 中華二胡学院 with 札幌藩陽合奏 バロック・コレギウム・サッポロ | 11/14(金) 11/19(木) | 60 | 120 | |
| 文学道場 | 「中・高生のための創作講座」 | 7/30(水)～8/1(金) | 20 | 51 | |
| 小・中・高生短歌コンテスト | 小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰 | 11/22(土)～1/18(日) | 3,000 | 4,291 | |
| 〃 | 小・中・高生短歌コンテスト表彰式 | 11/22(土) | | 62 | |
| ファミリー文学館 | ワークショップ「塗り絵・ゆらゆら木馬」 | 11/22(土)～1/18(日) | 2,000 | 465 | |
| 文字・活字文化の振興事業 | 「ファンタジーと神話——古事記からムーミンまで」講師：金沢英之(北大文学部准教授) | 11/2(日) | 60 | 81 | |
| 文化施設連携事業 | 「カルチャーナイト2014」 展示室の夜間開館等を実施 | 7/18(金) | 200 | 345 | |
| 文学資料の利用 | 閲覧室での研究、調査、読書等 | 通年(309日間) | | 5,990 | |
| 文学愛好団体の活動 | 文学愛好団体が講堂利用(貸館) | 通年(309日間) | | 1,570 | |
| 負担金事業計 | | | 9,070 | 24,046 | |
| ※ 講演会・セミナー・講話等 | 池澤館長連続講演会 | 1～3月(全3回) | | 512 | |
| ※ 研修事業 | 長期休業期間における指導者研修(2回) 高校教育研究会石狩支部研修会 | 8/7(木)、1/8(木) 7/15(火) | | 52 | |
| ※ ウィークエンド・カレッジ | ・生涯読書会、川柳、韓国文化、資料解説4講座 | 5～3月の金、土 | 240 | 278 | |
| ※ 文学館まつり | ギャラリー文学館、文学館演芸場、子ども広場、秋のミニ色紙づくりなど | 9/23(火) | 300 | 303 | |
| ※ 文化公演の活動 | コンサート、朗読会の会場に利用 | 閉館後の夜間 | 500 | 235 | |
| ※ 小学生向け事業 | 「文学館たんけんクイズ」 | 通年(309日間) | 100 | 115 | |
| 自主企画事業計 | | | 1,140 | 1,495 | |
| 教育普及事業参加者 計 | | | 10,210 | 25,541 | |

IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「氷点50年 三浦綾子フォトメモリアル」関連資料調査
- ② 特別展「FROM HAND TO HAND 手から手へ展」関連資料調査
- ③ 特別展「ムーミンの世界展」関連資料調査
- ④ ファミリー文館「“うま”とあそぼう!!」関連資料調査
- ⑤ 特別展「小檜山博の文学」関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度の特別展「渡辺淳一展」関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「挿絵の美展」関連資料調査
- ⑨ 次年度の特別展「文豪・谷崎潤一郎展」関連資料調査
- ⑩ 次年度のファミリー文学館関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「さとぼろ展」関連資料調査

V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援名義並びに共催名義の使用を承認して支援した。

- ① ヴァイオリン&ギタースプリングデュオコンサート実行委員会
ヴァイオリン&ギタースプリングデュオコンサート
(平成26年4月20日 北海道立文学館地階ロビー)
- ② 中川町教育委員会
斎藤茂吉記念第21回中川町短歌フェスティバル
(平成26年6月1日～10月31日 中川町)
- ③ こころのコンサート実行委員会
こころのコンサート
(平成26年6月7日 北海道立文学館地階ロビー)
- ④ しの笛北奏会
山口千壽篠笛演奏会
(平成26年6月28日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑤ 國松竜次ギターコンサート実行委員会
國松竜次ギターコンサート
(平成26年7月5日 北海道立文学館地下ロビー)
- ⑥ 北海道高等学校教育研究会国語部会
平成26年度北海道高等学校教育研究会石狩支部国語部会役員研究協議会
(平成26年7月15日 北海道立文学館講堂)
- ⑦ 河合智美ギターコンサート実行委員会
河合智美ギターコンサート
(平成26年8月2日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑧ 戦没学生慰霊美術館「無言館」
朗読劇 目屋の桜 ―「腐れ胡粉」異聞―
(平成26年9月21日 北海道立文学館講堂)

- ⑨ NHK 文化センター朗読教室 松井信子クラス
第 16 回「北海道ゆかりの文学を読む」朗読会
(平成 26 年 10 月 19 日 北海道立文学館講堂)
- ⑩ 特定非営利法人絵本・児童文学研究センター
第 19 回文化セミナー「昆虫に学んだこと」—子どもの時代がつくるもの
(平成 26 年 11 月 16 日 小樽市民ホール)
- ⑪ フレット倶楽部
東日本大震災被災地復興応援ギターとマンドリンによるチャリティーコンサート
(平成 26 年 12 月 6 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑫ こころのコンサート実行委員会
こころのコンサート
(平成 26 年 12 月 19 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑬ 日本児童文学者協会北海道支部
草原賞記念講演会「児童文学のいま」
(平成 27 年 3 月 1 日 北海道立文学館講堂)

VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・チラシ及び講演会・セミナーチラシ等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、JR 札幌駅、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催を PR するため、TV 及び新聞紙上で有料広告を行った。
- ② 「北海道文学館報」第 97 号（5 月 30 日付）、第 98 号（8 月 11 日付）、第 99 号（10 月 29 日付）、第 100 号（2 月 24 日付）を発行した。

VII 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「小樽山博の文学」図録の刊行
- ② 「平成 25 年度年報」の刊行

VIII その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入
博物館実習生 ー14 名（受入期間 7 月～1 月。実習期間 2 週間）